



中春別小学校  
学校便り

# 窓

第2号

発行責任者 校長 若松 正  
令和4年4月28日 発行

## 見つける能力と素直な心持ち

1年生の生活科では、みんなで校舎を見て回り、学校にはさまざまな人がいてさまざまな場所があること、学校内にはきまりやマナーがあることに気付き、適切に関わることができるようにすることを目的として「学校探検」の授業を行っています。そのまとめとして、2人ないし3人ずつの4つの班に分かれて、職員室や保健室、給食室など、ふだんの学校生活ではあまり出入りするところのない場所に出かけました。その探検場所のひとつに校長室もありました。ノックをして入ってきた1年生たちは、最初にドアのところで、名前を名乗り、「学校体験しています。お時間いいですか？」と丁寧に挨拶をしてくれます。入学してから登校した日を数えてもまだ10日ほど。それなのにずいぶんしっかりとしています。あらかじめ決めていた質問をしたあとは、部屋の中を見て回り、その場で思いついた質問をすることになっていました。

初めて入った部屋で質問を思いつくことができるかなと思っていましたが、そんな心配は無用でした。どの班の子どもたちも校長室にある色々なものを見つけてたずねてくれます。金庫のこと、開校50周年記念の五円玉のこと、歴代校長先生の写真が飾られた額のこと、災害時に避難の集合場所を示す赤い旗のこと、棚の中に並ぶ背表紙に金色の文字が入った教育法令集のこと、よくぞそんなところまでと感心します。中には、日めくりカレンダーに書かれた言葉やマグカップを置くコースターにも目をつけて、尋ねてくる子どもたち。「これって何？」を見つける能力。知らないことを「教えて」という素直な心持ち。これらの子どもたちの能力や心持ちに、大人は到底敵わないとつくづく感じさせられます。その好奇心旺盛な1年生たちの様子に気圧されながらも、次々と発せられる質問にワクワクさせてもらえた楽しいひと時でした。

新年度がはじまり、早くも最初のひと月が過ぎました。入学したての1年生たちはもちろん、学年がひとつあがったすべての子どもたちにとって、新しい経験や気づきのあった4月だったのではないかと思います。子どもたちの「これって何?」「教えて」という思いを大切にしながら、丁寧に向き合っていかなければと思います。

4月は予定していた内容や日程の変更をさせていただいた行事もあり、子どもたちにとっては戸惑うところもあったかと思います。それでもディスタンスをとるための工夫やリモート配信への対応など、その時々の中でできる最善の方法で取り組んでくれた子どもたちの姿は本当に頼もしく見えました。中には実施が叶わず中止させていただいた行事もありました。そのひとつが授業参観日。学校でのお子さんの頑張る様子をご覧いただくことや、学校や学級の方針を直接お伝えする大切な機会ですので、お集まりいただけなかったことは残念な限りですが、お配りしました資料をご確認いただき、ご不明なところなどございましたら、いつでもお尋ねいただけますようお願いいたします。

また、学習や行事など学校の様子を学級通信やブログ等でお伝えしております。学校での様子をお知りおきいただき、学校での出来事についてご家庭でお子さんとお話しいただく際のきっかけにさせていただくと幸いです。

打ち合わせをしたかのように一斉に花咲かせる水仙の黄。グラウンド西側の側溝の水溜まりに産み付けられた生き物の卵。あちらこちらから顔をのぞかせる露の臺。季節も春の装いを始めたようですが、まだまだ日々の寒暖差は続くようです。どうぞお体にご留意いただければと存じます。